



人 人 にんにん連携



隠された要因に気づくことの重要性！

公立甲賀病院 副看護部長兼 地域医療連携室長 寺村 幸子

今回の事例では、ひとつの家庭に介護保険対象者が 2 人おられ、それぞれの担当者から支援を受けておられたのですが、要介護者と介護者という関係でもありました。ところが、介護者は自分が介護に悩みを抱えていることを言えず、体調を崩し入退院を繰り返されていました。なぜ入退院を繰り返すのか、主治医の真田先生がここに疑問を持たれたことが出発点となり、家庭全体の支援へと発展しました。対象者を取り巻く家庭全体に視点を置くこと、即ち、“隠された真の要因に気づくことの重要性”を学んだ事例でした。

よくある事例、しかし、実は困難事例だったと感じることが多くなってきましたが、地域連携検討会では、お互いにいい知恵・いいパワーで刺激し合えるような研修会内容を、皆様とともに考えていきたいと思えます。

皆様からの事例提供は大歓迎ですので、よろしくお願ひします。

事例検討会報告

第 3 回 甲賀医療圏域 地域連携検討会が開催されました

日 時：平成 25 年 6 月 27 日（木）14 時～16 時

場 所：甲賀合同庁舎 4A 大会議室

参加者：医療関係者 12 人、居宅介護支援事業所 19 人、サービス事業者 3 人、行政等 15 人

計 49 人

テーマ：「顔の見える関係から始まる在宅支援

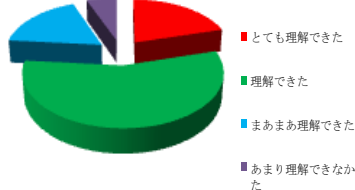
～入退院を繰り返すパーキンソン病患者の退院調整事例について～

内 容：地域包括支援センター、介護支援専門員、地域医療連携室の担当者、それぞれの立場から発表し、その後グループワークで、病院と在宅との連携を考えた。

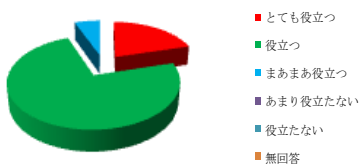


アンケート集計の結果

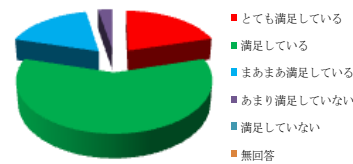
今回の「事例検討」の内容は理解できたか？



今回学習した内容は今後あなたの現場での実践に役立つと思いますか？



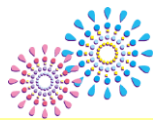
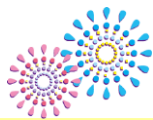
今回の研修に参加して満足していますか？



《感想から一部抜粋》・主治医の理解と方針によって左右される為、関係者の情報伝達を考える機会となった。

- ・すぐ退院できますという姿勢でなく、退院後これからどうしていくのかも一緒に考えて欲しい。
- ・情報収集の聴取が大切だと改めて知った。
- ・退院前になってから在宅支援を調整するのではなく、入院時や入院期間中にもカワパルスのような場をもてるといいな。
- ・主治医の先生の気づきやリードがあり、よい検討会をさせていただきました。このケースを病院医療職の方が課題をほりだし提供いただいたことに感謝します。

事例検討会の感想（発表者の声）



独立行政法人国立病院機構
紫香楽病院 真田 充 先生

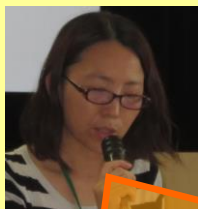
当日は急な業務のため参加出来ず申し訳ありませんでした。

今回、発表させて頂いた事例は療養環境が原因で増悪した神経難病の方で、医療・介護双方の協力が不可欠な経過でした。今後、同様の背景を有する症例が増加することが予想され、皆様方と協力し丁寧に対応していきたいと考えております。今後とも宜しくお願い申し上げます。



甲賀市社協 ケア・ラウンダー-しがらき
木村 真由子 氏

本人の状態が改善された事は良かったのですが、母親が結果的に入院になってしまった事で方法や手順が必ずしも良かったとは言えず、母親の CM としては反省点の残る事例となりました。しかし、本人や母親の背景を深く知り問題点に気付く事が出来た事は退院調整での関係者会議がきっかけであり、こちらが躊躇している間に病院側から積極的に働きかけて下さった事がありがたかったと思いました。

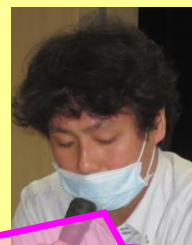


信楽地域包括支援センター
大西 裕紀子 氏

今回の事例は、一つの家に介護保険の対象者が二人おり、ケアマネとして誰のための支援なのか、本人の病態が急激な変化をとる中で、家族が機能していくためにはどのような方がよいのかを常に考えさせられるケースでした。

本人や家族の支援を考えると、キーパーソンや地域の協力者の存在など参加者の皆様から出された意見を聞かせてもらい、家族機能が継続したものになるためには地域で支えていくことの必要性を一層痛感しました。

独立行政法人国立病院機構
紫香楽病院 金田 大 氏



自立度が高かったり、既に多職種のかかわりがあると、そのことに安心し隠れた問題への気づきが遅れたり気付けない事があります。本症例では、個別でみるとつい見逃しがちなサインを違和感として気づき、対象者から家族単位に視点を切り替えることでいびつな家族関係によるストレスという隠れた問題（原因）の発見につながりました。日常のかかわりの中で抱くちょっとした疑問や違和感にきちんと対応できるよう努めていきたいと思えます。

今回、入退院を繰り返す患者の退院調整事例を用いた検討会でした。入退院を繰り返す中で本人や家族の問題に気づき、主治医をはじめ、各関係者が役割を持ってマネジメントができたことで本人の病状悪化を止められたと思います。各グループ、熱心に話し合いを持っていただき、関係者とは違う視点での意見も出て今後の方向性の手がかりにもなったのではないかと思います。これからも活発な意見を出し合い、医療と地域の手が強くつながっていただけることを願っています。



司会：甲賀市長寿福祉課
地域支援係
坪田 知子 氏

次回の研修会のお知らせ

次回の参加もお待ちしております！！

日時：平成 25 年 9 月 12 日（木）14 時～16 時

場所：甲賀合同庁舎 4A 会議室

内容：『顔の見える関係から始まる在宅支援～未定～』（詳しい内容は後日お知らせさせていただきます）

